“Out door live”としての タイ皆既日食ツアー

川村幹夫（川崎天文同好会）

1995年10月24日、インドからタイ、ベトナムにかけて皆既日食が見られた。数ある天文現象の内で、皆既日食ほどインパクトの強いものはない。しかし日本本土では40年後の2035年９月２日までこれを見ることが出来ない。それで、海外観光旅行を兼ねて、この日食を見るべく各旅行社が多くのツアーを組んで参加者を募り、その結果、大勢の人々がこれらの国を訪れた。

私はその一つである近畿日本ツーリストの主催する“タイ皆既日食ツアー”のコーディネーターとして情報収集に努めた結果、日食情報センターの中村幸夫氏のご厚意により現地の日食情報の詳細を入手、10月23日勇躍日本を飛び立ち、タイ国のSAPPADUUに布陣した。以下は、Out door live としての、日食当日の概略記録である。

◎天候

朝のうちは空一面うろこ雲に覆われていたが、第一接触ごろより風が出て雲が切れ、所々青空が現れ、雲も刷毛ではいたような雲にかわった。食分が50％頃よりその雲も薄れ、そして間もなく素晴らしい快晴となった。したがって日食天気階級表によれば４である。温度はかなり高く、蒸し暑かった。

◎参加者

私のグループはＣグループで、関東地区より27名、関西地区より８名、合計35名。他にＡグループとＢグループがあり、ＡＢＣ合計で約100 名とのこと。

◎観測地の様子

SAPPADUUはバンコク市内より約230ｋｍ のところに位置する田舎であるが、観測に布陣した地は西北より南東に走る巾5.5 ｍ、長さ1.2 ｋｍの道路で、アスファルトにより舗装されている。その北東方向は畑、南西方向は池で周囲に視野を遮るもの無く、したがって望遠鏡のセッティングには絶好の場所であった。当地で入手した地図によると、此処は、東経 101° 46.5′、北緯 14° 51.2′ とのことだが、この経緯度は日本の地図ほど正確ではなく、信用できないとのこと。したがってこの経緯度をもって計算した日食の各接触時刻には多少違いを生ずるかもしれない。（事実、10数秒弱ほどのズレを生じた）

◎観測の様子

私の観測機はモータードライブ付きのポタ赤にタカハシのＰ型用65mm屈折、それに×1.6のエクステンダーをつけて合成f1 800mm。カメラはニコンFE2 、モータードライブ付き。使用フィルムはフジのプロビア ISO 100。

もう一つ、皆既中の周囲の風景とコロナを同一画面に写すべく、ニコンFEに28mmのレンズをつけ、フィルムは同じくプロビア ISO 100。これを三脚につけ、すぐ側に立てておいた。

ポタ赤のセッティングは、当日ぶっつけ本番であったにもかかわらず、非常にうまくいき、観測中赤緯微動をほんの僅か動かしただけで十分追尾出来た。また、短波ラジオでＪＪＹを受信し、それをテレコに録音して、後で接触時刻の算出に使おうと思ったが、受信状態がわるく、それに騒音もひどくて失敗した。

皆既直前、香西先生と西空を眺め、空に投影されている日食本影錐が急速に濃度を増し、それがものすごい速さで迫ってくる異妖な様をつぶさに観察した。

コロナの形は東西方向に伸びた極小型で、とくに東側に長く伸びて見えたのが素晴らしく、印象的であった。その明るさは予想以上で、ことに内部コロナが異常に明るく、過去の経験をもとにして写した写真が露出オーバーになってしまったほどである。

皆既中、東の方に金星（-3.9等）が見えた。他に水星・スピカ・火星・アンタレス・木星などが見えるはずであったが、気がつかなかった。

◎現地の人の様子

観測地には、当初我々だけであったが、太陽が欠けるに従い現地の人々が大勢集まり、爆竹を鳴らしたり、花火を揚げたりして大変騒々しく、観測の様子をテレコに記録しようとしたが、騒音でほとんどＮＧであった。しかし、現地の警官が警備に当たってくれていたので、被害や事故は皆無であった。

意外だったのは、黄色い僧衣をまとった数人の僧が車で乗り付け、皆既中の太陽にカメラを向けたり、双眼鏡で眺めていたことである。タイは戒律の厳しい仏教国なので宗教的な見地から、彼らは日食を見ないのではないかと思っていたので、いささか奇異に感じた。

◎その他

日食の翌日より、バンコク各地を観光して回ったが、雨期の際の洪水の被害が回復しておらず、至るところ川のようになっており、痛々しかった。

－以上－